発行所
東京都新宿区東大久保2-78
戸山マンション241号
社団法人 大学婦人協会
電話 03-202-0572
編集兼発行人　杉野美恵
発行日　昭和45年10月26日

JAUW

おもな記事

1面　日米合同セミナー終了
2・3面　第1分科会—国際理解
第2分科会—教育と学生運動
第3分科会—都市化の問題
講演—日本の社会—中根千枝
4面　ドイツからの留学生
理事，支部長名簿

セミナー日誌
AAUW 日本滞在日誌

7月25日
午前　5：30　AAUW参加者31名羽田着
大島、中村出迎え
JTBのバスで帝国ホテルへ
各自ホテルで朝食
9：00　AAUW参加者登録
帝国ホテル新館中二階メゾニー受付デスクにて
藤田，大島，今井，伊豆山，片山，中村，青木，高木，前田，清宮，山崎出席
10：00　AAUW市内観光其の他へ

7月26日
午後　2：00～3：00
JAUW会員登録，帝国ホテルメゾニー受付デスクにて
杉野，笹平，福永，三浦，宮沢，中村，青木，坂上，渡辺，藤崎出席

7月27日
午前　開会式　経団連会館十階国際会議場
8：30～9：00　登録
10：00　開会　司会　前田のぶ
国歌　ピアノ演奏　山崎奈美子
開会の辞　日米合同セミナー委員長
藤田　たき
祝辞　文部省社会教育局長
今村　武敏（代読）
アメリカ大使館文化担当官
Mr. Bryan M. Battey
AAUW参加者代表
Mrs. Elizabeth Jane Wallace
講演「日米協力関係について」
元国連大使　加瀬俊一
参加者紹介
AAUW　アメリカ大使館文化局
Miss. Dorothy B. Robins
JAUW　大学婦人協会々長
今井冨美枝
来資紹介　セミナー委員会々長
氏家　寿子
11：15　閉会　歓談
出席者　来資　27名
AAUW　32名
JAUW　114名
11：45　歓迎レセプション(経団連会館)
司会　大島　清子
挨拶及び来資紹介　氏家　寿子
琴演奏　渡苅寿美子，浜本幸子
午後　1：30　レセプション閉会
1：45　AAUW会員バスにて経団連会館出発玉川学園に向う
大島，高野，上田，広瀬，高木，中村，山崎同行
JAUW会員は大磯アカデミーハウスへ出発
3：30　玉川学園着
学長室で小原学長の学園紹介のお話を伺い，学園生活の映画を見て，お茶の接待を受け，学長の著書などのお土産を頂き，玄関前で記念撮影の後辞去
4：30　玉川学園出発
6：30　大磯ロングビーチホテル着
7：00　夕食
8：30　懇親会 Grand Beach Party
アカデミーハウスで
司会　村井　孝子
四つの Family に分れて着席
（魚，貝，蟹，鯨）
赤とんぼの唄
Family story game
Spelling game
日本舞踊　古川　綾子
9：30　セミナー委員紹介　大島
国際教育情報センター紹介　山崎
10：00　茶菓　神奈川支部接待
閉会後分科会リーダー打合せ会

（次頁へつづく）

OISO JAPAN
July 27-July 30, 1970

JOINT-SEMINAR

AMERICAN ASSOCIATION OF UNIVERSITY WOMEN
JAPANESE ASSOCIATION OF UNIVERSITY WOMEN

セミナー参加者

AAUW

アーカンサス州	1
カリフォルニア州	3
フロリダ州	3
ジョージア州	2
イリノイ州	1
メリランド州	2
マサチューセツ州	1
ミシガン州	2
ミゾリー州	1
ニュージャージー州	2
ニューヨーク州	1
ペンシルベニア州	3
テキサス州	4
ワシントン州	3
ワシントンD.C.	2
計 15州	31名

JAUW

東京支部	75
大阪〃	11
兵庫〃	5
福岡〃	5
神奈川〃	5
岡山〃	5
愛知〃	3
広島〃	3
新潟〃	3
茨城〃	2
熊本〃	2
静岡〃	2
福井〃	1
群馬〃	1
京都〃	1
宮城〃	1
長野〃	1
長崎〃	1
大分〃	1
札幌〃	1
計 20支部	131名
全員	162名

一つの仕事を終えて

セミナー特別委員会
委員長　藤田たき

大磯のセミナーはますます成功裡に終ったということができるでしょう。とにかく私にとってはまことに有意義な、また楽しい一ときでした。これも全くJAUWの役員の方々が一年近くも準備のため、あらゆる努力をして下さったお蔭と存じます。厚くお礼申しあげます。

経団連での開会式、大磯での三部会でのお話合い、すきとおった白魚が一杯とれた地曳網の朝、目にしみる青い空に浮んだ富士を心ゆくばかりエンジョイした箱根へのドライヴ、皆なつかしい思い出です。

アメリカからの三十余名のお客様、さすが権威ある大学の卒業者のこと、態度の立派さに、万博へのついでの参加などとふと思ったりしたことを後悔したことでした。ことに嬉しかったのは、日本の各地からあんなにも沢山の方々が参加して下さったことです。

日米間相互理解の諸問題大学紛争の根源について、あるいは公害問題の討議も真剣そのものでした。グループ指導者のよい助言もさることながら、参加者お一人お一人が積極的に発言して下さったことは嬉しいことでした。

ことに日米間相互理解については、日本側から相当鋭い批判がされたようでしたが、アメリカ側参加者が忍耐深く、心ひろく耳傾けられたこと、また日本側が今や自ら感ずること、又正しいと思うことを、恐れずためらわず発言できるようになった今日の姿を、感慨深くながめました。

最後に、今度の参加者のうち、相当数の若い世代の方々があられたことは、一番大きい喜びでした。二十一世紀に指一本ふれることの出来ない私などにとっては、これら若い方々に大きな期待をよせるものです。一人でも多くの若い方がJAUWのメンバーになって下さることを祈ってやみません。

日米合同セミナーをかえりみて

会長　今井冨美枝

七月下旬の大磯海岸はバカンスを楽しむ人々でにぎわい、海岸沿いのバイパスを昼夜の別なく走る車の音は潮騒をも消す程でした。

一九七〇年七月二七日から四日間、これとは全く対象的な光景が、ロングビーチホテルに隣接した大磯アカデミーハウスで展開されていました。

三一名の米国人を交えた百数十名の大学婦人が、日米合同セミナーの貴重な一刻々々を惜しむかのようにあるいは全身を耳にして講演に聴き入り、あるいは友情を深めながら熱心に討議を続けていました。

JAUWとして初めての試みである国際的催しが、このように盛会裡に終了しましたことは協会に取って大きな感激でございました。

セミナー開催の趣旨に賛同して物心両面から援助を与えて下さった官庁、法人関係の諸賢にはご信頼に応えるに足る成果を挙げ得ましたことを報告してご好意に衷心から御礼申し上げます。

この度の成功は、藤田委員長、氏家大会会長、大島事務局長をはじめ多数の委員の長期に亘る献身的な努力の賜と感謝申し上げることは云うまでもありませんが、セミナー各分科会リーダーと参加者の美事なチームワークが大きな盛り上りを見せ豊かなみのりを結ぶに与って大きな力があったことに敬意を表する次第でございます。

又、この際忘れてならないのは、各支部の絶大なご協力であります。東京支部と地元の神奈川支部は、大勢の会員を動員して連日何やかとお世話下さいましたし、AAUW会員の旅行先に当った各支部は夏休みも返上して歓迎に心を砕いて下さいましたし、遠隔地の某支部は会員から集めた浄財を贈ってセミナーの成功を祈って下さいました。一九七四年のIFUW大会開催を目前に控えて、各支部のこのようなご声援は一入うれしうございました。

地方支部からの参加者の中で、日頃年一度の総会と年四回発行の会報を通じてのみJAUWの存在を意識しておられた方も、寝食を共にしたセミナーでの四日間で、JAUWをもっと身近かな親しいものに感じて下さったと思います時、セミナーがJAUWに与えた副産物的収穫をよろこばずにはおられません。

最後になりましたが、AAUW会員の旅行に同行して下さった委員の方々のお骨折りご苦労はセミナーでの疲れを休める間もなかっただけに並大抵ではなかったことをお察しいたし心からお礼を申し上げます。

四年後の大会の試金石と目された合同セミナーでした。今回の経緯につぶさな検討と反省を加えつつ、貴重な経験を活かして未来に向って希望をもって準備をすすめたいと思います。

経団連会館での歓迎レセプション

第一分科会

国際理解　特に　—日米間—

Grand Beach Party　でのなごやかな交歓

日米人は互に相手をどのように感じ、彼等について何を知っているか

アメリカ側から、日本人は礼儀正しく、常に周囲の評判を意識し、適応性が高く、野心的かつ勤勉であり有能な実務家および優れた技術者の素質をそなえている。このようなイメージは報道機関によって造られるところが大きいが、他国の新聞に比べて、アメリカの新聞は外国の情報を詳しく報道しないと語られていた。

次にアメリカの国民性について論議され、まず特徴としては、決断の早さがあげられた。AAUWの一人が、この傾向は開拓時代からの慣習で、決断を早く下さなければ生き残ることができなかった歴史的状況に由来していると説明した。日本側からは、決断が早く短刀直入に話の核心に触れてゆくのはアメリカ人の長所であり、日本人のまわりくどく、慣習を考慮しつつ合意に達するのを待って行動に移る性格は望しいものでないと発言された。しかし今日の若い日本人は卒直に意見を表明するようになっているから、十年二十年後には日本人の態度も変化し、日米間の意志疎通も容易になるだろうとの期待も語られた。

中共と核兵器

大方の日本人は直接中共の脅威を感じている訳ではないが、政府は中共が核兵器を持った現在、多少の懸念を持っていることが説かれ、日本政府は核兵器の製造も考慮しているとの最近のニュースについて其の真偽を問われたのに対し、日本政府は非核三原則を繰返し述べたっている以上、容易に態度を変えることはないだらうと答えた。

中共の国連加盟は現在は米国での多数世論ではないが、又相当の人々は国連の不偏性を信じていると証言された。この趣旨はJAUW会員も支持した。

日米安全保障条約

最近条約延長に反対して行われたデモは、アメリカで報道されたより広範囲な支持を受けたものだったという発言がされ多くの日本人は日本国内にある一二四の基地は不必要だと思っており、又一部には感情的に安保存続に反対しているがこれは今日、アメリカの防衛なくして自らを守りたいという気持が、国民の間に広く拡がりつつあるからであると説明された。又日本の防衛費は国民総生産の1%以下に過ぎないことも明らかにされた。

政治を無視することはもとよりできないし、政治により多く関心を持ち、公共の問題に関与することは我々の責任であるが、情報を十分に持たないでこれ以上政治問題を討議するのは無益ではないかとの発言がJAUWの側からなされた。

世代のギャップ

米国では青年達は、既存体制の擁護者としての年長者に反抗し、これまでの考え方ではもはや今日の問題解決にならないと考えている。青年は富を求めず、より有意義な諸価値を探求している。今日アメリカでの大きな問題の一つに、有能な若者が麻薬と反抗的行為により社会的に葬られて行くことがあげられる。

日本でも同様の事態が一部では起きているが、全体として大きな社会問題になる程ではない。この違いはアメリカでは自由な行動の範囲がづっと広いということによるのではないか。

繊維問題

アメリカの意見としては、資源の乏しい日本としては、輸出入に頼らざるをえない事実を認める。AAUWとしては国内で自由貿易の立場をとって来たが、JAUWもその定款の許す範囲で、同じ目的に向って歩調を合せて行ってほしいとの希望があった。

IFUWは国際理解を如何に深めることができるか

ウオーレス女史の講演「果たすべき約束」を討議資料として用いた。日米双方から国際理解のための支部活動や計画が紹介された。それによって分ったことは

JAUWは本来研究的な機関であるが、現在は個人々々として外国人留学生を通じて国際理解の強化に努力しているが、アフリカ、東南アジア諸国の人々との交流をもっと奨励されなければならない点を指摘された。

JAUW本部は二つの国際部があり、国際第一部は個々の外国との交流につとめ、国際第二部は国連の理解普及に専念している。地方支部でもこの目標で活動しており、具体的な効果をあげている処もある。

総じて会員の中には個人としては積極的に政治活動をする組織に入っている人もあるが、JAUWは政治色のない団体であることに特徴があることを確認した。

AAUWでは二年毎に開かれる全国大会で、次の研究テーマを決めることになっており、現在のテーマは次の四つになっている。

一、アメリカの外交政策
　権力の現実と予盾
二、教育—学園の新しい姿
三、悩み多き地球—人類は生きのびられるか
四、都市空間の人間的使用法

各支部は、周囲の社会の要求に応じてプログラムを立て、活動する。

全国大会では表決にもとづいて議会活動の方針を決定し、支部はその決定に反対するような政治活動を支持することはないが、会員各自は個人として賛否自由である。AAUWが次第に政治活動に関与するようになったのは、今日では教育や社会問題すべて政治の力なしで解決しないという見解にもとづくものである。

JAUWは一九四六年、女子の高等教育が普及していない時点に創立され今日に至っているので、漸時活動方針の変革も考えられている。

AAUWとJAUWとは共にその国々において、婦人の地位向上に尽しているが、セミナー参加者の総意として、男性との同一労働同一賃金の原則の確立だけでは満足せず、管理職に婦人を登用すべきであるという点で意見一致を見た。

会議はAAUW、JAUW双方から両国間のよき理解のために互いに努力することを約して散会した。

第二分科会

—教育と学生運動—

日本とアメリカの教育の比較は主として高等教育でなされ、小学校以前の教育、小学校教育、中等学校教育も、高等教育との関連において取上げられた。日米の教育は、相違点よりも、むしろ多くの類似点を持つものとして関心を引いた。

第一回目は、日本側から近代日本の教育制度の発達を、日本の政治、社会と関連づけ、一九四六年の「教育基本法」により、エリート教育から、民主的な教育に移行した経過、急進的な教育理念と、保守的な理念との対立、厳しい入試の問題、学生運動、女子教育、教科書検定の問題にまで言及された。

アメリカ側は、岐路に立つアメリカの教育を論じ、複雑で多様性に富むアメリカの文化を背景として、今後十年二十年の間には多くの変化が見られるだろうと云われた。今日、アメリカの教育が直面する危期を克服するためには「公共の利益」という立場から教育を考え、その改革案を評価する必要がある。

教育の現在的意義、教育に必要な経済の裏付け、民主的な教育行政について質問や意見が述べられ、現在起りつつある変化は、その学校が所属している社会、政治機構との関連、自己の個人としての存在意義を追求しようとする学生の心理との関連において検討しなければならないものである。

日米教育制度の相違は、日本社会の同種性と、アメリカ社会の多様性に由来するものが多く、また教育に対する政府のコントロールの形式にもよるものと思われた。

第二回目の討論会においては日本側が、教育交流の重要性を指摘し、戦後日本の女性に与えられたAAUWの奨学金に対して謝意を表した。

アメリカ側は教育交流について、教育交流の意義を交換学生の側におけるものばかりでなく、受け入れる大学にとっての意義をも合せて強調された。

アメリカにおける「継続教育」については、用意されたペーパーを読み上げられ、日本側からは女性の成人教育の現状について説明があり、母親が再教育を受

IFUW本部(ロンドン)への電報

1970年7月30日　大磯

大学婦人協会日米合同セミナー，1970年7月27日～30日は国際理解，教育と都市化問題につき成功裡に盛んな意見交換を終了した。セミナーはIFUWの皆様に挨拶を届け，1974年日本におけるIFUW総会を期待します。

JAUW委員長　藤田　たき
AAUW委員長　エリザベス　ウオレス

7月28日

午前　8：00　朝食
9：00～10：00　全体会議
開会のことば　藤田たき
講演—Japanese Society—中根千枝
Mrs. Wallace 紹介　Oltman
講演「果すべき約束」Wallace
要訳　青木玲子
休　憩
10：15～12：00　分科会

午後　0：30～2：00　昼食・記念撮影
アカデミーハウスの海に面した後庭で記念撮影をし，芝生の上でサンドイッチとジュースで三々五々昼食をとった
2：00～5：00　分科会
グループ毎に中途で休憩
5：00　夕食　全員アカデミーハウス
7：00～9：00　大磯町有志と交歓，夕食の終る頃から後庭で大磯町婦人会有志の盆踊りが始まり，セミナーの人達も加わって盆踊りを教わったり，フォークダンスを楽しんだ

7月29日

午前　5：30～6：20　地曳網見物
アカデミーハウスの直ぐ下の海岸で地曳網を楽しんだ
8：00　朝食
9：00～12：00　分科会

午後　0：30　昼食のサンドイッチを持ってバス3台に分乗，箱根に向って出発
1号車　AAUW会員と高木，前田，山崎同乗。夏には珍しく晴れ渡った空に聳える富士の麗姿を車窓から眺め，箱根関所趾を過って箱根ホテル着，少憩の後フェリーボートで桃源台に渡り，再びバスで大涌谷，早雲山経由小涌園
2号車　JAUW会員33名，箱根周遊小涌園到着
3号車　JAUW会員53名，サンダースホーム見学，小涌園へ
4：00　小涌園ホテル着
4：30～6：00　フェアウェルパーティ
司会　黒沢ミツ
乾杯　アカデミーハウス館長
挨拶（謝辞）新潟支部　大井ひで
挨拶　Wallace
歌の交歓　JAUW　さくらさくら
荒城の月
AAUW　アロハオエ
全員で　仕合せなら手を叩こう
6：30　小涌園出発ロングビーチホテルアカデミーハウスへ，バス1台はベタニアホーム（老人ホーム）へ立寄った
7：30　帰着
夜は明日の Closing の準備

7月30日

午前　8：00　朝食
9：00～11：45　Closing Session
司会　広瀬ハマ子
各分科会報告
IFUWへ電報　Wallace 提案，可決
閉会の辞　藤田たき

午後　0：30　昼食
1：30　AAUW会員はバスで小田原駅へ（高木，中村，福永，山崎，三浦，前田が案内の為同行した）
JAUW会員は解散帰宅
2：34　小田原駅よりこだま乗車
4：38　名古屋駅着，名古屋支部（前田，栗田，栗本，羽根，鈴木）の出迎えを受けてキャッスルホテルへ
6：00　名古屋支部との交歓会
歓迎のことば　支部長前田美稲子
挨拶　Wallace
乾杯　羽根明子
食事　懐石料理
琴演奏　市岡，鈴木
名古屋について　栗本志津子
日本舞踊　鈴木
日本に来て　Oltman
合唱
閉会の言葉　支部長
謝辞　本部会員高木
AAUW出席　29名
JAUW出席　6名
愛知支部会員　25名
この夜はキャッスルホテル泊り

7月31日

午前　8：20　バスで大阪へ
11：00　万博協会本部着
協会本部の田島澄子氏，大阪支部の寺沢支部長，寺本姉の出迎え，応接間で課長の挨拶とお茶の接待を受けた
12：00　エキスポクラブで昼食

午後　1：00～7：00
日本館，ソ連館，アメリカ館を見学，バスで宵屋ユネスコハウスへ出発
9：00　到着

8月1日

午前　9：20　ユネスコハウス出発京都へ
途中でユネスコハウス館長広瀬夫人から紙入れ，日本手拭をお土産にと頂く
京都着，京都ホテルで少憩
11：00　仙洞御所着
案内を受けて広大な庭園見学

午後　0：40　六盛着昼食
京都支部松本，岡崎，小堀，原姉に迎えられ，支部長清水勝子姉筆の日本画の色紙を全員に頂いた
3：10　平安神宮へ
4：00　参詣の後名古屋へ
6：00　キャッスルホテル着

8月2日

午前　自由時間
12：00　キャッスルホテルで昼食会
JAUWから同行した6名はAAUW側の昼食招待を受けた

午後　AAUWは名古屋市内見学
JAUWからの同行6名はここで解散帰京

8月3日

バスで奈良へ，途中法隆寺に立寄り，奈良ホテルで昼食少憩，奈良支部長の川井しづ姉，土谷スミ姉に迎えられて奈良扇子，英文の奈良観光案内書等を全員に贈られた
バスで伊丹空港へ
4：40　ソウルへ出発
神戸支部，大阪支部会員多数の見送りを受けて搭乗，意義深い10日間の日本旅行を終った

第三分科会

―都市化の問題―

準備会構成

委員長　藤田
総　務　今井，氏家ー開会式，レセプションの挨拶
　黒沢，竹内ー開会式会場責任者
　村井　　ー会員交歓会司会
事務局　大島，青木，松井ーAAUWとの連絡，会場，宿舎の予約，物品の調達
　中村，田村ー印刷物の準備，各部との連絡
　鈴木，原沢ー開会式，セミナー会議の録音，記録の作製，保管
　前田　　ー開会式の司会
　山崎　　ータイムキーパー，箱根廻遊の責任者
　山口　　ー資料集め
　高木　　ー見学，旅行の責任者，開会式の名札製作
セミナー部　高野，緒方，山本ーディスカッショングループのリーダー
　上田，青木玲，中川，羽田ー記録，通訳
財務，会計　三浦，片山ー会費其の他資金の管理，経費支出の責任
広報部　杉野，永峰，浅見，南ー招待状，礼状の作製発送，新聞社，放送関係の連絡，会報に経過，結果の発表
設営部　福永，笹平，坂上，宮沢，藤崎ー会場，宿舎其の他備品の準備，宿舎の割当，登録受付
　小杉　　写真撮影，配布の世話
接待部　田中，吉井，清宮，西村，田村，堀，稲毛，渡辺ー登録受付，開会式の来賓の世話，レセプション，アカデミーハウスにおけるリフレッシュメントの準備
出迎え　大島，山崎，高木，前田，清宮，青木，三浦
登　録　AAUW会員は一山崎，片山，前田，中村，青木，高木
　JAUW会員は一杉野，坂上，宮沢，渡辺，松井
関西旅行同行者ー高木，福永，前田，中村，三浦，山崎その他地方支部会員より司会接待に参加

海の風に吹かれながら楽しい昼食の一時

一、農漁村と都市化の問題
1過疏の問題
a貧富の格差拡大
b教育施設維持の困難
c公共福利施設維持の困難
2ベッドタウン化の過程における問題
a道路交通網の不備
b自然の喪失と破壊
c文化財の喪失

二、新都市生活者の問題
1集団就職者の問題
2団地居住者の暮しの問題
a疎外感
b生活様式，慣習の相違
c過密居住

三、公害その他の問題
1種々の都市公害
a騒音
b空気，河川の汚染，地盤の沈下
cみなまた病，むちうち症など
2住宅問題
a住宅不足，人口過剰
b違反建築など
3人間疎外，孤独
a老人問題
b若者の問題

なお最終回では，三つの題目を通じて，大学婦人協会としては何ができるか，何をなすべきかを討議した。

第一テーマについては，日本の現状として，都下八丈小島が昨年無人島となってしまった経緯，人口流出が労働力不足をもたらし，それが地域社会の機能麻痺を起し，生活持続を困難にすること，および資源利用の粗放化をもたらすことなど。また米国においても多くのカウンテイが数百人の人口になり，同じ問題をおこしている事例が紹介された。

日本も米国も急速な経済発展のために大きな代価を支払はねばならなかった。日本のそれは経済生長があまりに急速であっただけに米国に上廻る状態をもたらしている。特に自然の破壊，文化財の喪失などの被害が大きく，また若者の伝統無視の態度など両国共通であるが，日本の場合は国土も狭く，その影響はより大きいと考えられた。

第二テーマについては，両国ともに若者が都会に流出するために老人は益々取り残されること，特に日本においては，従来の家族構成からみて，この変化のもたらす痛恨は大きいこと。都市に出た若者もまたしばしば孤独の状態から，米国ではマリワナ，日本ではシンナー吸引などに走る者の多いこと。これに対し，米国ではマリワナに対する刑罰がアルコールや煙草の害に対する罰に比して過重でありはしないか，むしろ教育的指導やクリニックにおける治療を重視すべきだとの意見が出てきている。

老人問題については，日本に比して米国では，貧しい老人に対する福祉対策，医療対策が，金銭的にも施設的にも行届いていることが認められた。

第三テーマに関しては主として公害問題が話合われた。これはも早一国の問題ではなく，国際的な問題として取りあげられるべきである。しかし身近かな道路や河川を汚さないこと，その清潔を住民が守るべきことなども話合われ，又，企業がその成長とともに住民の福祉を考えるべきこと，また科学者達が公害の発生源に対してもっと積極的に取り組み，それを一般市民が支持推進すべきことなど以上のような話し合いの後に，大学婦人協会は何をすべきかを以下のようにまとめた。

一、専門家による都市計画のマスタープラン（それぞれの地域の多様性を生かした）の出現を行政機関に訴え，圧力をかけ，支持すること
二、我々自身が公害に関連ある法規を学び，更に我々の希望を公聴会などで積極的に述べること
三、関心を持っている各種のグループ（PTAその他）と協力し，上層部公共機関に公害改善のための提案をすること
四、まず自分自身公害についての勉強をし（公害の状態，現在行われている研究などの）データーを集め，対象に応じて効果的に働らきかけること（ある意味では我々は問題を全面的に捉えることが不足し，それ故に敏感な問題意識にかけていること。
五、JAUWは来年度，都市問題と生活科学というテーマの研究を進めることにしているが，本年九月より直ちに，この一部にとりかかり，そのことについてAAUWとも定期的に連絡をとること
六、青少年の理想主義を支持し，それと公害撲滅のための計画，実行を協力して行うこと
七、若者の孤独に対しては一日母親制度に協力を深め，孤独な老人に対しては一日娘制度などを推進すること。日本では特に老人施設の向上に大学婦人協会が力を注ぐこと。
八、上記提案に対し，各地においてそれぞれの委員会を作り，責任を持って具体化すること。

AAUWからの手紙

AAUW・JAUW合同セミナーに出席した者はみんな，この画期的な催しこそは真に大平洋にかかる掛橋としていつまでも心に残す事でしょう。そして再びこういう国際的交歓の機会がある様に願ってをります。

JAUWの方々の御親切と，美しい風土と，独特の文化は我々にとって忘れ難いものになりました。そして私共の滞在の間中，色々と計画して下すった催しと，それから個人々々の触れ合いは，どんなにか貴女方のお国と人間を理解するのに役立った事でしょう。来年8月に開かれる総会にはどうぞ大勢でいらして下さい。その時にはこの度の御好意に報いたく，出来ればワシントンの本部へお招きしたいと存じます。別便でAAUWから心からの贈物をお送りします。

JAUWの多幸を祈りながら

AAUW副会長
　アリス L. ピーマン女史
教育部委員
　ルース オルトマン博士
国際部委員
　ソルヴェーグスピールマン夫人

大学婦人協会日米合同セミナーによせて

セミナー事務局長　大島清子

時既におそく会場宿泊所その他適当な所を得るのに困難を極めこれを軌道に乗せる迄の係の人々の苦心は筆紙につくし難いものがありました。其の行く先々で厚い壁につき当っては途方に暮れた事も度々でしたが其の都度藤田委員長からの激励のおことばにはげまされ，一方氏家大会長外会員の資金面えの御世話に力を得，今井会長以下の方々のお役所方面への陳情，地方支部の応援を始め各関係方面からの並々ならない御意は富士をおおう雲迄払いのけたものと思はれます。

何分にもこうした国際会議は此の会始まって以来の大行事，不行届きの点も多々あった事と此の紙上をお借りしてお詫び致します。

次回IFUW総会は一九七四年いよいよ日本で開催と決まりさうです。

何卒会員の皆様が今回の経験を生かし立派な会が開かれます様切に念願して止みません。

演講「日本の社会」

東京大学教授　中根千枝

このような国際的なセミナーでは，出席者はいやおうなくお互いが異なる文化に属しているということを認識せざるをえないものです。そしてその印象は，西と東といった捕え方をなされ勝ちでありますが，この二分法は，面白いかもしれませんけれども誤解を招きやすいものです。

アメリカの方々はアメリカの文化や価値がイギリスのと違うことをよく知っておられるでしょう。東洋においても同様であって，日本とインドを比較してみれば，その相違は日本とアメリカの相違より大きいのです。それ故，東と西といった考え方をせず，アメリカと日本，とはっきり云った方が安全です。

アメリカは西洋の中で特殊な国であり，日本は東洋の中の特殊な国であります。その点が共通しているのは面白いことです。同時に二国は，社会構成においては両極端を代表しています。アメリカが多くの異る民族八種の集りであるのに対して，日本は同一民族国家の代表的なものです。他のアジア諸国は言語を異にするさまざまな集団から一国が構成されているのが普通です。日本の社会構造，価値観を理解する一つの鍵は，この同一民族という点であります。

同一民族からなる社会の一つの利点は，或る目的のために社会の全員またはその一部を容易に動員出来るようなシステムを作りやすいことです。たとえば，日本では十七世紀の半ばに，すでに徳川幕府という強力な官僚制度が出来上っていました。それは封建社会という形をとりましたが，近代官僚制度と同じ基礎の上に立っていました。日本の近代化は，実はこの基礎の上に成し遂げられたものです。近代化の過程において日本は西洋文化の種々の要素を輸入しましたが，これらは部分的，断片的であって，一つの体系全体ではなかったのです。昔ながらの文法の上に外来語を数多く取り入れた言語のようなものであって，日本は外面的にはこの百年の内に大きな変化をなしとげましたが，社会組織の文法は少しも変っていないのです。つまり工業化はなし遂げましたが，基本的な文化の構造は変っていないのです。

短時間に日本の社会を説明するのは困難ですが，私の簡単な説明から，日本における人間関係，また社会組織は，きわめて日本的であり，多くの接触の中からできてきたアメリカの場合とは全く違うことがお分りになるでせう。たとえば，物ごとを決定する過程や，「民主々義」という概念においてもっとも明白にこの相違を見ることができるのです。私の近著「日本の社会」（ロンドン・パークレーにおいて出版）から引用しますと――

象徴的な表現としてのデモクラシーは，第二次世界大戦の直後に，アメリカの文化の一要素として日本に定着したのですが，日本やアジア諸国に流行しているデモクラシーという概念は，西洋のデモクラシーと必ずしも同じ意味をもっていません。日本では，政治形体に関して用いるというよりは，人間関係，集団の

（次頁につづく）

ドイツからの留学生

四五年度今井奨学金の中から三六万円（一〇〇〇ドル）を外国協会よりの研究者への助成金として出したい旨、IFUW本部を通じて候補者を募った処、六名の申込があり、その中から最も相方の条件の折合う人としてドイツのマッツドルフさんに決定、九月三日に羽田に迎えた。

マッツドルフ・イングリッド
一九四〇年ドイツ生れ、独身
キール大学助教授
ドクターの学位
専攻　人類学
受入れ先　京都大学犬山霊長類研究所

ドクターマッツドルフの研究は、人間の幼児から青年までの背骨の発育の状態を測定することによって、その人種の標準的特色を定めることで、既に世界の各地方で調査研究を進め、今度来日した事で、東洋人についての研究をしようというもので、犬山の周囲の幼稚園、小学校、中学校を対象に測定し、目下アイヌ調査団に加って北海道を旅行中である。

大体本年中滞日の予定で研究の成果は未知数であるが、熱心で素朴な研究者を助成できたことは喜しい。

上京の機会にJAUWの会員に逢ってドイツの話をしたいとの希望があり、東京支部で講話会を開く予定である。

婦人教育指導者の海外派遣に参加

海外における婦人団体の組織とその活動を視察研究して国際的視野を広め、各国婦人との交歓を通じて相互理解と友好を深める為に婦人教育指導者を海外に派遣するので、適格の人を推せんするよう文部省から連絡があり、大学婦人協会からは、副会長武市千代子姉を推せん、四〇日間の予定で九月二七日出発された。

ドイツ、フランス、スイス、イタリー、印度を廻って、母親連盟、生協婦人部、託児施設、主婦連合会、有権者同盟、農協婦人部、労働組合婦人部を訪れる。スケヂュールの中にはドイツの大学婦人協会も入っている。

事前、事後の宿泊研修などあり、なかなかのお骨折りではあるが、御帰国後のお話を楽しみにしている。

IFUWから

国際第一委員長　伊豆山美津枝

次の二項目を通知してきました。

一、ボランテイア団体を組織　国連は、若い方々が建設的機会を得、開発事業に参加して国際理解を深めるよう、国連開発事業ボランテイア団体を組織することを計画しております。ボランテイアは、二十一才以上の大学卒又は高等技術者で、政府とか団体の推せんによる方々です。御希望の方はお申し出下さい。

二、IFUW本部委員の改選が一九七一年八月一六日に行われます。委員改選の行われます部は、財務部、文化部、婦人の地位部、大学基準部です。

JAUWは、各部の委員候補者として、各々一名づつ推せんすることができます。立候補を御希望の方がありましたら、伊豆山まで御連絡下さい。

国外奨学生募集経過

国外奨学委員長　青木満里子

九月二一日〆切、まず書類の上で詮衡した。本年は全部AAUWへの希望者で十六名、それを九名に絞って面接テストの上三名を決定して、AAUWに推せんした。

夏の日米合同セミナーの中でも、留学生交換の問題も議題として取上げられ、送る側だけでなく、受入れる側としても期待を持たれていることを知り、好意を感謝したことであった。

（前頁のつづき）

あり方に関して使われます。戦後デモクラシーが流行したのは、日本人にとって、古い「封建的」あるいは「権威主義的」は日本の社会機構、政治機構を批判するのに都合のいい言葉であったせいであります。デモクラシーは、戦前の組織すなわち上層部に権限を集中させるような運営に対する否定的反動を意味しています。日本の組織においては、上層部が下層部に対して、無限の権力を持っていましたが、それは上下の関係におかれた人の役割において明確な線が引かれていなかったためです。

日本人がデモクラシーと云う場合、弱い者、下層部の者の味方をする、あるいは彼等に対して配慮するようなシステムを意味し、実際には、下層部を含めた全員の合意を基にしてあらゆる決定がなされるべきであるという意味であります。最高度の合議ともいうべきものによって到達した合意は、戦後の「民主々義」時代の副産物のように思われるかもしれませんが、これは本来の集団行動の基本的なスタイルを表わしているものであって、日本人にとって決して新しいものではありません。全員一致による決定と、集団の最上部による権力の行使による一方的決定とは、共存していたのです。この二つの方法の相異点は、私に云わせれば、集団の内部構成の相違（其の規模や様式）によるのであって、その種類－職業の別、地方と都会の相違、老若の差－などによるのではありません。

メンバーの中に大して身分的なあるいは経済的な差がない十人前後の小集団の場合には、日本人のいう「民主々義」的な運営はしやすいのです。その良い例は、すべての決定を合議制によって行なう伝統的な農村などに見られます。定期的な会合の他に、村に関する緊急な問題、重大な問題が起る度に緊急会議が開かれ、各戸から一人の代表が出ます。通常は戸主ですが、不在の場合には妻又は成人した息子が出席します。人数は十名前後が理想的です。村は通常小集団に分れており、その各々は十戸前後からなっております。このような単位は最も機能の高い集団であり、このレベルで村人にとって第一義的な会合が度々開かれます。

日本人にぴったりした会議はこれ位の数であり、そこでは貧しい者、地位の低い者も意見を述べます。まず始めのくつろいだ会話から自由な雰囲気が生れ、それが本題に入るウオーミングアップの役をします。会合において大事な事は全員一致の決論に到達することです。不満をもつ者があれば、団結が弱まるからです。「我々は一つ船に乗っているのであって、落伍者を出さずに仲よくやって行くべきである」という気持がその底流をなしています。全員一致に到達するためには時間と手間を惜しみません。

討議の過程は必ずしも理論ではありません。問題になっている個人の感情に対してかなり同情的にあれこれと話合いますが、行きづまった時には休憩を取り、後刻新しい気分で再開します。そのうちに意見の対立が減り、一致点が増します。七割見当の同意者ができたら、全員一致に到達する徴候が見えたと判断します。最後には、少数意見の持主は「皆さんが賛成である以上、私の意見は違いますが、云うべきことは云い尽しましたので皆さんと協力する用意があります」と云って譲歩します。

これで私の話を終りますが、以上は、日本人の集団の中における行動の一面を述べたものです。これから討論を重ねられるうちに二つの「民主々義」がどのようにかみ合い、その経過、結果がどのような形をとるか、直接経験されることと思います。

大学婦人協会理事名簿

昭和45年度

	氏名	住所	電話
会長	今井冨美枝	文京区西片2－10－14	(811－0050)
副会長	竹内和子	新宿区中落合3－20－6	(951－4906)
〃	武市千代子	豊島区目白3－22－5	(953－3018)
書記	福永サチ	中野区野方2－51－11	(385－5358)
〃	鈴木俊子	三鷹市下連雀3－14－6	(0422-43-2824)
会計	枝キク子	新宿区西落合2－16－12	(951－2318)
〃	高桑花子	文京区千石3－27－4	(941－4060)
財務	若林花子	世田谷区代田2－25－10	(414－5617)
企画	永峰澄子	杉並区和泉3－18－11	(321－7052)
国内奨学	島美喜子	杉並区西荻南3－19－13	(333－5705)
国外奨学	青木満里子	杉並区下井草4－28－4	(399－0687)
国際第一	伊豆山美津枝	新宿区柏木3－351	(371－7352)
国際第二	小杉瑪里	中野区白鷺2－13 白鷺ハイム2－605	(337－0105)
教育	竹中はる子	練馬区豊玉中1－1064	(992－0612)
婦人の地位	浅見千鶴子	茅ケ崎市東海岸南1-5-23	(0467-82-4356)
基準	上田明子	小平市津田町1543－10	(0423-41-9836)
社会福祉	田端光美	北区赤羽台2－3，27-406.	(900－7260)
報道	杉野美恵	品川区上大崎3－11－9	(473－4556)
会員	石田礼子	北多摩郡狛江町猪方 560	(480－2268)
東京支部長	田中温子	世田谷区池尻3－10－10 三菱電機世田谷住宅1-302	(422－1223)
監事	北村孝	杉並区善福寺1－21－26	(390－4567)
〃	片山秀子	中央区築地4－5－7	(541－6938)

支部長名簿

昭和45年度

支部	支部長	住所
東京	田中温子	東京都世田谷区池尻3－10－10 三菱電機世田谷住宅1－302
愛知	前田美稲子	名古屋市千種区猪高町上社字池の浦28
秋田	川口栄子	秋田市保戸野諏訪町10－35
茨城	三宅治代	茨城県東茨城郡内原町 日本高等国民学校女子部
愛媛	坂本よし子	松山市三津桂町
大分	（連絡先）	別府市浜脇1－7－8　家近ミドリ
大阪	寺沢道子	吹田市青山台4－22－4
小樽	近藤静枝	小樽市富岡町1－8－1
岡山	柴山茂子	岡山市伊福町ノートルダム清心女子大学内
神奈川	小山ひで	横須賀市深田台35
京都	清水勝子	京都市北区小山初音町33
岐阜	祖父江ゆき子	岐阜市長良崇福寺町2丁目
熊本	富永サカエ	熊本市黒髪町年留毛 627
群馬	山田かつみ	前橋市千代田2丁目1－20
高知	岩貞好	南国市西山 546
神戸	大工原邦子	芦屋市楠町1－8－202
札幌	水島ヒサ	札幌市南五条西七丁目
静岡	森勝代	静岡市鷹匠町3－34
仙台	大脇静枝	仙台市上杉5－3－70
栃木	船田小常	宇都宮市一の沢町　作新学院内
奈良	川合しづ子	奈良市西大寺国見町2丁目 300－6
長崎	有田敏子	長崎市鳴滝町 765
長野	高野悦子	松本市外本郷村横田 123－6
新潟	伊藤フミ	新潟市西船見町字浜浦 新潟青陵女子短期大学内
函館	吉村花子	函館市柳町4－12
広島	広瀬浜子	広島市上幟町5－6
福井	佐久勝子	福井市乾徳町4－3－11
福岡	中野愛子	福岡市長丘5丁目27－2

新入会員（一〇七名）

東京支部
福島ユキ　奈良女子大
藤井幸子　〃
岩崎英子　〃
田島淳子　聖心女子大
佐藤千鶴子　〃
三浦千代子　〃
沖嘉子　青山学院大
伊東果枝　日本女子大
松村祥子　〃
松岡明子　〃
望月登志子　〃
小峰和子　立教大学
桜井三枝子　〃
高橋直子　〃
船戸牧子　東京女子大
諏訪暘子　〃
杉岡嶺子　大阪女子大
林真理子　〃
佐藤良子　お茶の水女大
川合由美子　〃
相沢絢　〃
馬場雅子　〃
山崎奈美子　東京芸術大
岡江照子　中央大学
太田和子　津田塾大学
北条敏子　〃
田島暘子　〃
平野温美　東京教育大
冨田フサ　実践女子大
立松スミ子　津田塾大学

福岡支部
石蔵幸代　奈良女子大
谷川多恵子　福岡女子大
村田光子　〃
河野真紀子　〃
佐々木美津子　〃
立石月子　〃
藤原芳　〃
八木良子　〃
山田美美子　〃
多田治子　〃
松尾ヨシノ　〃
赤岩厚子　日本女子大
伊藤和枝　〃
上村智恵子　福岡女子大
花田瑠美子　〃
村上昌子　〃

愛知支部
大脇久子　金城学院大
小菅宣子　〃
柴垣和子　〃
寺田澄子　大阪女子大
石原頼子　お茶の水女大

塩田章子　お茶の水女大
加藤千枝　日本女子大
日下部和子　〃
志水世喜子　〃
山田まさ　〃
池上昌子　津田塾大学

神戸支部
五町美登　大阪女子大
岡田治子　神戸女学院大
三宅晶子　〃
上紀子　〃
巽美代子　日本女子大
宇野谷ウサ　津田塾大
河上京子　〃
塩見愛子　〃
井上寿子　京都女子大

新潟支部
原田治
高井タケ子　日本女子大
八百枝規子　新潟大学
前田和子　〃
平沢和子　〃

広島支部
伊藤雅子　広島大学

秋田支部
青山馥　日本女子大
新井和代　〃
粂川幸子　〃

佐藤雅子　日本女子大
西宮婦佐子　〃
四柳玲子　〃

小樽支部
毛利零　日本女子大
荒木昌恵　〃
坂田知子　〃
小黒紘子　〃

京都支部
岡崎鶴子　日本女子大
山本昌子　〃
小堀まつ　〃
市谷暘子　京都女子大
伊藤洋子　〃
田村恵美　京都府立大

岡山支部
片山嘉女子　岡山大学
内田和子　奈良女子大
高畠暘子　ノートルダム清心女子大
渡辺寛子　日本女子大
植木絢子　岡山大学

仙台支部
島原洋子　東北大学
伊藤晴子　〃
上野昌子　〃

大阪支部
後藤喜子
西野瑞穂
明石淳子　大阪市立大
杉本温子　〃
久保洋子　大阪大学

神奈川支部
松下会美子　日本女子大
村山和子　〃
森昭子　東京女子大
豊田和子　聖心女子大

長崎支部
岩坪政枝　日本女子大
山田和代　京都女子大

会員の訃

前橋篤子姉　津田塾大学卒
三月二五日物故（大阪支部）

小林千代子姉　津田塾大学卒
七月二一日物故

高橋公子姉　早稲田大学卒
国際キリスト教大勤務
ギリシャ旅行中交通事故のため

会費完納を！

本年会計年度の会費納入状態は、総会員数二、四二〇名中一、四〇一名（五八％）であります。

これは毎年に比較して悪い数字ではありませんが、会員の最も初歩的義務として是非会費を完納して頂く様お願いします。

一九七四年の国際会議という大きい行事を控えておりますので、会員部では先づその準備の第一歩として、全会員に呼びかけて会費の完納を励行するよう、各支部の支部長と会計の方に奮発をお願いしたいと存じます。

46年総会は新潟で

次の総会々場を引受けて下さる支部について、四五年総会の際には決定しなかったが、其の後本部より新潟支部に意向をうかがっていた処、去る六月一日付で左のような受諾のお手紙を頂き、六月二〇日支部長御上京の機会に本部理事とお逢いして詳細の打合せをした。

総会後の見学旅行も、一応佐渡を考えて頂いてる模様で、楽しみの多い総会になりそうである。さして会員数の多くない支部で、思い切って引き受ける決心をして頂いたことを感謝しています。

大学婦人協会々長　今井冨美枝様

新潟支部長　伊藤フミ

昭和四六年度総会々場につきまして、五月三〇日の支部総会でお引受けいたすことに決定いたしましたので、よろしくお願い申し上げます。

つきましては当支部で準備いたすことなどお教え頂きとうございます。後略